

東海地区 認知症フォーラム 2016

D-カフェ(出会いカフェ)

2016年11月23日(水・祝)
ウインクあいち 小ホール2
三重県・鈴鹿市 有限会社ホワイト介護
総合施設長 北 正美

1



地域福祉の大切な視点

地域福祉を推進するためには、住民、関係機関・各種団体、市社会福祉協議会、行政などが、それぞれの役割を果たし、お互いに力を合わせる必要があります。

自分自身や家族でできることは自ら行う

自助

行政などが行う公的なサービスを活用して解決を図る

公助

互助

共助

自分だけでは解決できないことは地域の中の助け合いで解決をする

地域福祉の視点に介護保険制度が「共助」として組み込まれた

地域包括ケアシステムの5つの構成要素と「自助・互助・共助・公助」

平成25年3月
地域包括ケア研究会報告書より

○高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す「地域包括ケアシステム」。

地域包括ケアシステムにおける「5つの構成要素」

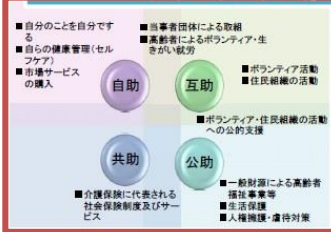


「介護」、「医療」、「予防」という専門的なサービスと、その前提としての「住まい」と「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、連携しながら在宅の生活を支えている。

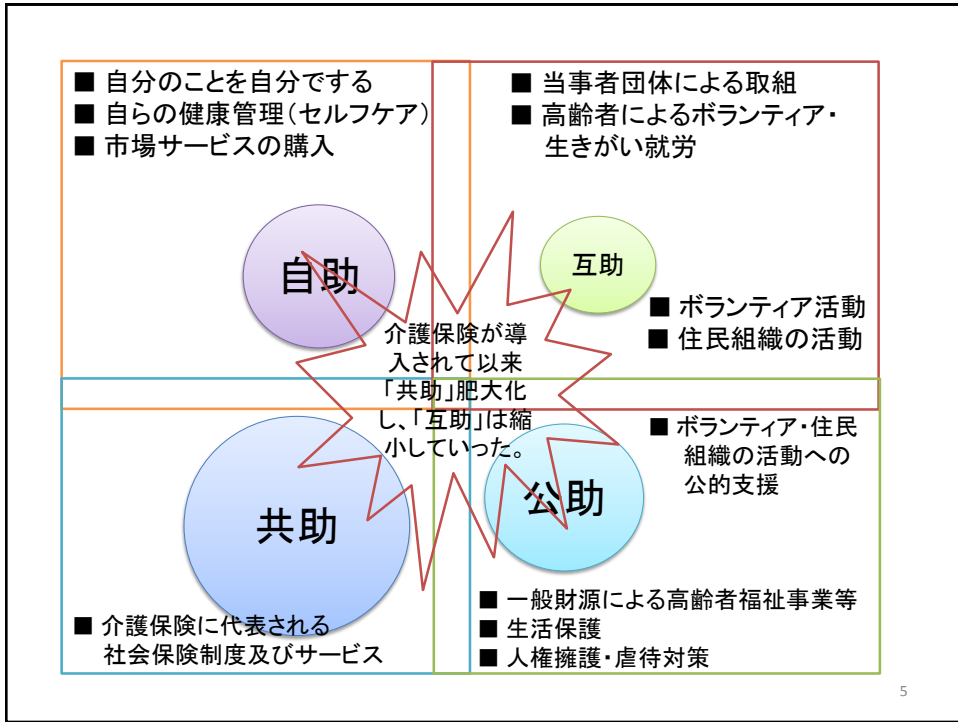
- 【すまいとすまい方】
 - 生活の基盤として必要な住まいが整備され、本人・家族の選択と心構えが重要。
 - 住まい方が確保されていることが地域包括ケアシステムの前提。高齢者のプライバシーと尊厳の確保も必要。
- 【生活支援・福祉サービス】
 - 心身の能力の低下、経済的困窮などから生じる生活困難を解消し、生活できるように生活支援を行う。
 - 生活支援には、食事の準備、洗濯、掃除などを行うことができるよう生活支援を行う。
 - 生活支援には、食事の準備、洗濯、掃除などを行うことができるよう生活支援を行う。
 - 生活支援には、食事の準備、洗濯、掃除などを行うことができるよう生活支援を行う。
- 【介護・医療・予防】
 - 様々な抱える課題を、連携し、一体的に提供し、専門職によって提供される(有機的に連携)。
- 【本人・家族の選択と心構え】
 - 単身・高齢者のみ世帯が増える中で、本人・家族が理解し、そのための心構えを持つことが重要。

地域包括ケアシステムの中で「共助」の役割が組み込まれた。「自助」「互助」の役割が新たな形として求められるようになってきた。

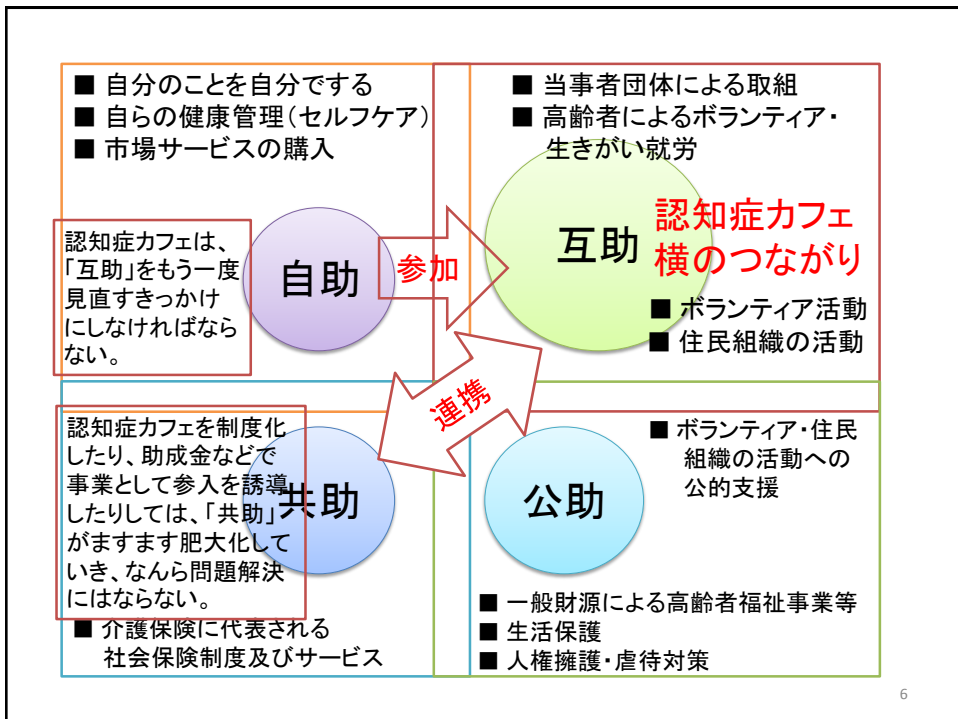
「自助・互助・共助・公助」からみた



- 【費用負担の区分】
 - 「公助」は、行政による公的負担。「共助」「互助」は、介護保険などリスクを共有する仲間(被保険者)の負担であり、「自助」には「自分のことを自分ですること」に加え、市場サービスの購入も含まれる。
 - これに対し、「互助」は相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なもの。
- 【時代や地域による違い】
 - 2025年までは、高齢者のひとり暮らしや高齢者のみ世帯がより一層増加。「自助」「互助」の概念が求められる範囲、役割が新しい形に。
 - 都市部では、強い「互助」を期待することが難しい一方、民間サービス市場が大きく「自助」によるサービス購入が可能。都市部以外の地域は、民間市場が限定的だが「互助」の役割が大。
 - 少子高齢化や財政状況から、「共助」「公助」の大幅な拡充を期待することは難しく、「自助」「互助」の果たす役割が大きくなることを意識した取組が必要。

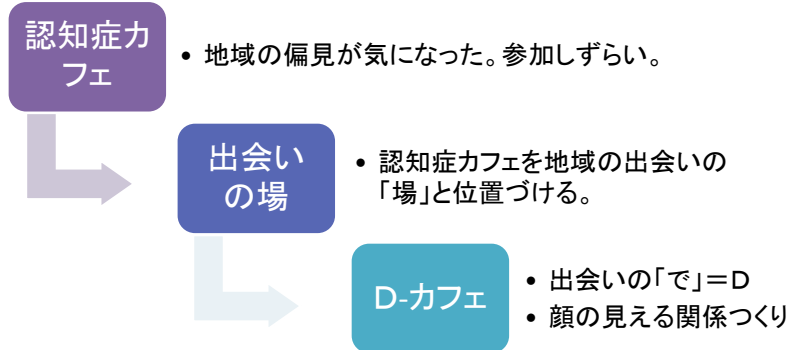


5



6

ネーミングに迷い！



7

D-カフェに決定！

目的

- 事業所の地域貢献をめざす
- 地域の横のつながりを構築する
- 認知症を地域で支える拠点とする

方針

- 出会いの場・顔の見える関係をつくる
- 気楽に参加し、楽しい時間を持つ
- 専門職・行政・ボランティア等の参加により介護の相談機能・認知症の理解の啓発に貢献する

8

Dーカフェ実施場所

鈴鹿市長太旭町6-3-9

同一敷地に

グループホームくじら

長太の寄合所「くじら」

(古民家利用デイサービス)

居宅介護支援事業所なのはな

の3事業所が開設されている

長太の寄合所「くじら」で日曜日に毎月1回実施

グループホーム・デイサービス・ケアマネの

3事業所協力のもと実施



9

自主事業を貫く！

- 目的:地域づくり
地域のつながりができれば、新たな事業(認知症予防事業など)が期待できる。
事業自体が目的ではない。
- 運営費:1回3,000円前後
- 参加者:地域住民のほか、ボランティア、社協職員、地域包括支援センター職員、鈴鹿市職員、居宅介護支援事業所職員、訪問看護ステーション職員、他事業所職員、自治会長、民生委員、他市職員など
- 広報:自治会の回覧、地域の掲示板、その他関係機関へのチラシの配布など

10

運営は柔軟に！

茶話会

- お茶を飲むだけ
- 癒しの時間と空間を提供するのみ
- 専門職・ボランティア等との会話を楽しむ
- など

お楽しみ会

- トランプ・カルタ遊びを取り入れる
- うたを歌う・音楽を聞く
- 回想法で思い出話
- など

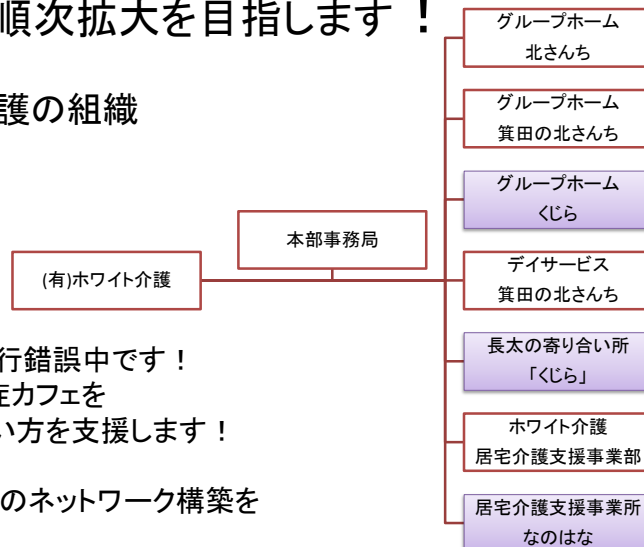
啓発活動等

- 認知症サポーター養成講座などのお知らせ
- 介護・認知症の相談のお知らせ
- 認知症多職種協働勉強会のお知らせ

11

D-カフェは順次拡大を目指します！

• ホワイト介護の組織



- D-カフェは試行錯誤中です！
 - 地域で認知症カフェを開設したい方を支援します！
- ※ 鈴鹿市内の認知症カフェのネットワーク構築を目指します！

12

運営内容

参加費

- 無料

メニュー

- 飲み物: コーヒー、紅茶などソフトドリンク
- お菓子: 駄菓子や洋菓子

接待

- ボランティアによる給仕あり
- 基本はセルフサービス

今後の 課題

- 食事を提供する…有料化も検討する
- 医師の参加をお願いする

以上

13

「D-カフェ」は「認知症カフェ」の一形態

認知症にこだわらず、地域の出会いの場として
地域力を育むために開催されています。

「地域貢献」が主目的です

ご清聴ありがとうございました